

2012
7月号

念仏のこころに生きる生活を

高岡教区

教区報

二〇一二年(平成二十四)年度 臨時教区会の報告

去る六月二十六日(火)に平成二十四年度高岡教区臨時教区会が開催され、平成二十三年度一般会計予算を含む財務承認議案六件が慎重審議の上、可決承認されました。その後、財団関係各種会計決算およびさくら保育園の決算について報告されました。

平成二十三年度一般会計決算について

教区の一一般会計の歳入では、まず、教区賦課金で、本年度賦課金は予算に対し一万八千二百四円の増。各種助成金では、七五〇回大遠忌法要懇志教化助成費の減により減。雑収入では、印刷負担金等の減により減となり、歳入額全体ではほぼ予算額通りの収納額となりました。

歳出では、まず、伝道振興費で教区報発送経費減のため減。基幹運動推進費のうち、門信徒教化費では会議費減のため減。基幹運動推進費・推進委員会費では会議費減のため減となりました。会議費では教区会費・組長会費の会議費減のため減。教務所費では、まず人件費の諸手当で減。社会保険料で増となり、人件費全体で減となりました。また、事務費では出張交通費で増となりましたがその他の費目で減となったため、全体として減となりました。その他

の費目はほぼ予算額通りの執行となりました。歳入合計額から歳出合計額を差し引いた残額二百七十四万五千七七八円を平成二十四年度に繰越をいたしました。

平成二十三年度教区特別会計決算

平衡資金会計・転退職会計ではほぼ予算額通りの執行。災害対策費会計では東日本大震災に発生に伴う見舞金・派遣費等の支出をいたしましたため、次年度繰越金が約七十万の減となりました。教化資料作成費は、歳出での経費支出減のため次年度繰越金が約十八万の増となりました。キッズサンガ推進費では、二十三年度宗派助成金交付により繰越金増となりました。支出では、研修費・会議費・組助成金を支出いたしました。

その他

高岡教区区令によって定められている「高岡教区宗務調査研究委員会」(教区会議員によつて構成。財務委員会・法規委員会に分かれる)の委員について、今年度教区会議員任期満了に伴う議員の交替により新委員の任命がありました。

教学財団関係

去る五月三十一日(木)に財団理事会・

評議員会が開催されました。教学財団一般会計では、歳入の部で、前年度繰越金で増となりましたがその他の費目ではほぼ予算額通りの収納となりました。歳出では、法要費で超過しましたが、事業費全体では減となりました。管理費では、営繕費で会館内エアコン新設工事のため超過。高熱水では、ガス・電気・水道料の増のため超過いたしました。特別会計基金歳計では、ほぼ予算額通りの執行となりました。教学開発室では、歳入で参加費・賛助会費で減。歳出で公開講座開催経費で超過いたしました。

各種予算書を別紙に同封しておりますのでご覧下さい。

平成24年度教区賦課金 納入について

5月当初、各ご寺院様宛に教区賦課金の告知書を送付させて頂きました。

納入期日は告知書に記載してありますように前期分が7月31日、後期分が12月25日迄となっておりますので早期の納入をお願い致します。尚、今年度の教区賦課金は2011(平成21)年度の宗派賦課金の120%が依頼額となっております

六月二十五日（日）、福井市の福井フェニックスプラザを会場に、大谷範子仏教婦人会総連盟総裁をお迎えして第7回中部・北陸仏教婦人会大会が開催された。大会スローガンは「念仏に生かされるよろこびを行動へ」が

大谷範子仏教婦人会総連盟総裁さまご臨席のもと

第2連区仏婦大会に1960人

大会スローガン 「念仏に生かされるよろこびを行動へ」

大会テーマ 「み教えとともに...ありがとうの輪」

6月25日、第7回中部・北陸仏婦大会・高岡教区からは206名が参加

れるよろこびを行動へ」、大会テーマが「み教えとともに...ありがとうの輪」。この大会に高岡教区仏教婦人会連盟から二〇六名の会員が参加した。参加者は早朝から教区内のそれぞれの地域から五台のバスに分乗して出発し、開会の一時間前には会場に到着。午前十時から始まった大会の開会式では、担当教区の福井教区代表者による大会旗を先頭に、各教区の代表者がそれぞれの教区の連盟旗を持って入場。

続いて献灯・献華・献香が行われ、大谷範子仏教婦人会総連盟総裁が焼香された。勤行は昨年、本山で勤められた親鸞聖人七五〇回大遠忌法要の宗祖讃仰作法（音楽法要）が勤められた。開会式では、大谷範子仏教婦人会総連盟総裁から、「人とともに慶んでこそ本当の慶びとなります。人の頑張っている姿に感動し、人に何かできることが自分の慶びになっていく。人とのつながりに目覚め、ともに慶ぶ生き方を育むのがお念仏」とお言葉があり、大会を通して何を受けとめ確認していくかについてお示しいただいた。



開会式の後に、ステージ上の大きなスクリーンに活動風景を次々と映し出しながら、第二連区内の六教区と福井教区十五組の各仏教婦人会の活動紹介があった。昼食後の活動劇では、福井教区足

羽組本向寺の仏教婦人会の活動劇が披露された。これは本向寺の五代住職・了顕が、文明六年三月の大火に際し、燃え盛る火災の中に飛び込み、いのちに替えてお聖教を護ったという「血染めお聖教」として語り伝えられている物語を劇にしたもので、参加者は役者顔負けの劇に見入っていた。

記念講演では武蔵野大学大学院教授の山崎龍明師が「念仏 新たな私の誕生（回心）」と題して講演。「念仏を通してはじめて自分の真実なる歩みとなってくる。煩惱が無くならないということが明らかになることが、自我が崩壊することであり、そのように今まで気づかなかったことに気づかされる。気づきによって信仰の課題をいただいでいくことが念仏」と話された。

二年後のこの大会の開催担当教区は高岡教区。閉会式では、石野順子高岡教区仏教婦人会連盟委員長が次期開催教区代表として挨拶。「二年後に高岡教区でお待ちしています。また高岡でお会いしましょう」と、再会を誓いあった。



『北陸藤の会』の発会式が行われる

去る七月六日、石川教区金沢別院において、富山・高岡・石川・福井の北陸四教区の財界人有志による『北陸藤の会』の発会式がご門主ご臨席のもと行われた。

発会式にはご門主からのお言葉があり、「今から五〇年前、親鸞聖人七〇〇回遠忌を記念して各地に『親鸞聖人讃仰会』が結成されました。しかし、年月が経つ中で活動も下火となり、今や活動実態があるのは一部地域のみとなりました。しかし、七五〇回大遠忌を終えて、このような会が結成されたことを大変うれしく思います。皆様は会社の長として活躍されておられますが、人を役に立つ・立たないといった利用価値で見めるのではなく、ともに輝く尊い命であるという阿弥陀様の教えを心にお仕事いただければと思います。」と述べられた。発会式終了後、会場をホテルに移して祝賀会が催され、ご門主ご臨席のもと和やかな雰囲気ですそれぞれ交流を深められた。



高岡教区黎明・諸種講座の開催について

下記の日程にて2012年度の黎明・諸種講座を開催いたしますので、お参りくださいますようお願いいたします。

大畠信隆氏(大阪教区・本願寺派布教使・元連研中央講師・講題「悲しみに寄り添う」)

- 8月1日午前9時～ 射水組真福寺
- 8月2日午前5時～ 砺波組妙寿寺
- 8月3日午前5時～ 若神組善興寺
- 8月4日午後2時30分～ 川上組福光教堂

飯島憲彬氏(京都教区・本願寺派布教使・輔教・講題「お念仏ひとつ」)

- 8月1日午前5時～ 若神組善興寺
- 8月2日午前5時30分～ 川上組永念寺
- 8月3日午前5時～ 砺波組正楽寺

里見淳英氏(福井教区・本願寺派布教使・福井教区布教団副団長・講題「光に遇う」)

- 8月1日午後7時～ 若神組善興寺
- 8月2日午前5時～ 若神組善興寺

嶋津弘隆氏(福井教区・前福井教区教区相談員・講題「仏教のものの見方、考え方」)

- 8月4日午後2時～ 砺波組光嚴寺
- 8月5日午前5時30分～ 若神組光円寺

奥野寛暢氏(富山教区・本願寺派布教使・講題「慈悲のこころ」)

- 8月4日午前5時～ 砺波組報恩寺
- 8月5日午前5時30分～ 糸岡組浄福寺

全戦没者を悼み平和を願うつどい2012

テーマ 「自分たちで作る 命優先社会」

内容 第1部 全戦没者追悼のつどい
第2部 平和を願うつどい

講師 鎌仲 ひとみ氏(ドキュメンタリー映像監督・氷見市出身)

日時 8月6日(月)午後6時30分～9時30分

会場 西本願寺高岡会館1F 礼拝堂 各寺院様にチケット並びにちらしを郵送いたしております。

尚、7月24日(火)午後7時より無料上映会(同封ちらし参照)を行いますので、合わせてご参加ください。

御同朋の社会をめざす運動のコーナー

『御同朋の社会をめざす運動』教区委員会委員研修会報告

六月二九・三〇日、『磯はなび』において、「御同朋の社会をめざす運動」教区委員会委員研修会が開催されました。

一日目の研修では組長・組主幹・教区委員会の門徒委員と僧侶委員の四名が、『御同朋の社会をめざす運動』の方向性を考える 教区・組・寺院での運動の姿」をテーマに問題提起が行われ、特に、私たちの日常の中で何を变えていかなばならないのか。私は何を变えたいのか。何を守っていくのかということを中心に発表がなされました。

「私にとっての基幹運動とは、私たちが目を背けてはいけない大事なことに関わろうとしていく運動だと理解しています。その中で最も大事だと思うのは戦争の問題です。私たち本願寺教団は親鸞聖人の教えに大きく反し、国家という世俗の権力に屈し、多くの門信徒・僧侶を戦地に送り出し、阿弥陀の願いに反して人を殺し殺されるという現実を作り出した。その事実が消えることはありませんし、そのことに目を向けてこなかったことが現在の教団が抱えている諸問題にも深く関わっています。この問題は一僧侶として死ぬまで見つめていかなばならない問題だと受け止めています。」「また、基幹運動の理念を受け入れられない僧侶・門信徒の方の思いをいかにして受け止めるかということも重要な課題であると思います。運動に関わる人が、関わらない人を『この人は運動しない人』という風に切って捨てるという面もあつたのではないか、そこが運動推進側の反省すべき点ではないかと思えます。」「差別は私とは関係ない問題とすぐ反応してしまう面がありますが、そもそも差別の問題は浄土真宗の教えと切つては切り離せないもの。そう受け止めていくことからしかこの問題は始まらない。なぜ念仏を唱えるのか、南無阿弥陀仏は何のために生まれて下さったかを考えない限り、個人の中にある差別問題というものへの偏見がそれを阻んでいくと思います。まずは、一人ひとりが現場の中から感じられた問題意識を育てていくことが大切です。東日本震災の苦悩の現実に対して、そこから目を背けるのか、真宗の一信徒として向き合っていくのか、まさに私たち一人一人が問われていると思

ます。」（飛鳥寛静氏・若神組組主幹）

「現実社会の問題と向き合い、社会に開かれた宗門を築いていくことも基幹運動の目的だと思います。ヤスクニ・差別・東日本震災と放射能汚染の問題、どれも大変な問題であるがゆえに、この問題を担う人材の育成という視点も必要です。宗法改定後の混乱が続く中、今こそ私たち一人ひとりが決断し、行動に移さなければならぬ時代のはじまりであると感じています。変えなくてはいけない点は、何よりも私たち自身の意識だと思います。上意下達の中にどっぷり漬かった思考停止状態に陥ってはいないでしょうか。」（織田隆夫氏・五位組組長）

「門徒である立場から言わせてもらいますと、現在の運動は門信徒やそれ以外の一般の人に対するアプローチが弱い、内向きの傾向を感じます。もっと広く世間に対して、浄土真宗の教えを伝えていくための行動や方策の検討が必要だと思います。また、総代としても熱心な門徒がほとんどいないことが気にかかります。まずは組で仏教の基本講座の開催と参加の呼びかけ、やはりその際には住職の声掛けが必要だと思います。」

（狩野政甫氏・教区委員会委員）

「基幹運動とは何か、と言われると正直なところ未だにぼんやりとしかわかっていません。イメージとしては差別やヤスクニなどへの取り組みであろうとは思っていましたが、はっきり実態がつかめなかつたな、という印象です。しかし、差別や戦争はいけないことだとは誰もが知っていることですが、それらのことについて正しい知識を持つていなければなりません。運動というよりも浄土真宗の僧侶として基礎的な知識として持つておかなければならないのが、この差別やヤスクニという問題なのではないかと思えます。また、一方で大変内向きな運動というイメージがあつたのも事実です。いろんなお寺さんのお話を聞いていますと、どうしてもわが寺の門徒の囲い込みばかりに熱心な感じで、浄土真宗の信者を増やすということには余り努力できていなかったように思えます。法要儀式ばかりに力点が置かれ、教えに生きる個人を増やすということはおろそかになつていくように感じました。今後の取り組みとしては、お寺でのイベン

トなどを通じて、若い人やお寺に縁のなかった人たちに、まずはお寺の魅力に出会って頂くことに取り組んでいこうと考えています。」(篠島敏信氏・教区委員会委員)

これらの問題提起を受けた分散会では「基幹運動の名称が変わるだけでなく、その内実が変わっていくのではないか」といった運動の方向性を危惧する意見や、社会の苦悩にどう応えていくのかという意見が出ましたが、特に、問題提起の中で触れられた「今までの運動が内向きであったかどうか」ということに対して「自己を振り返ること抜きにして運動はありえない。内省することが内向きとは言えない。」「本当に内向きの運動であったならば、もつと意識変革は進んでいたのではないか。」「本当に内向きだったのは、わが寺のことしか頭にはない僧侶の意識であって、だからこそ運動があまり受け入れられなかったのではないか」等、多くの意見が出されました。

二日目は「データで見る各組の現状と課題」をテーマに浜野信宏教区主幹が、各組の現状と課題をデータから分析する形で問題提起しました。その分析の中で、以下の点が指摘されました。

各組の委員構成の七割以上が男性、それも寺族中心の傾向が見て取れる。組会議員の構成で門徒議員が選出されないまま放置されている所がある。計画書を出している組は七組で前年度の総括がされているのは四組のみ。推進委員会費の内訳を見ると組によって定義が違い、教化団体への助成や懇親会費などが大きな割合を占めている場合もあり、委員会として何をするかという定義が各組によってバラバラである。

「現状の分析なくして計画は立てられないと思います。理念や方針がない中で行事計画を立てても、何をすべきか、なぜやるのかが明らかにならないと単なる行事消化に陥りやすい。また、財政面では組独自の活動に対する支出の割合が低いという実情が垣間見えます。組として運動をどう進めていくのか、ということの確認が必要です。」(浜野信宏教区主幹)

それを受けた分散会では、門徒推進員との連携や坊守の組活動への参画についての意見が出されました。


最後にご講師の小武正教氏(同和教育振興会理事・備後教区三次組組長)から以下のご助言をいただきました。「同朋運動を一言で言えば、私が問われ

る運動』です。僧侶であつても門徒であつても私が問われる、その中から自分を知らされていく運動だと言えます。差別の現実から、戦争の現実から、今問われてきた。門信徒会運動を一言で言えば、問うことの中より自分の中の願いというものが、求めているものが明らかになっていく。そのように言えるのでないでしょうか。」「まずは具体的課題から出発する。それは差別という事実であつたり、戦争協力という事実であつたり、また、家庭の問題であつたり、そうした一つ一つの問いかけや具体的事実から出発するという視点が無ければ、問題は自分の問いとはなりえない。今で言えば原発・震災の問題がそうでしょう。まずは『出会う』ということが無ければ、具体的事実から出発することはできないと思います。その出会いをどうやって組内全体で作上げていくか。組の執行部がいかにして、具体的課題から出発できる場を作っていくか。組はそういう役割をする課題があると思います。組がそれらの問題と出会う場のお膳立てをする。当事者との連携、話し合いの中で自分自身が問われていることを知る。事実と出会い、そしてどのような背景があるかを分析する。その問題を成り立たせているものは何か、国家の政策であつたり、一人一人の無関心であつたり、それを分析し、自らの責任において取り組む。私の場合は院号の問題でした。『言っていることとやっていることが違う』と、ご門徒から指摘を受けました。全体の決め事をするのは本山ですが、それに従うのは僧侶一人一人としての責任です。おかしいことはおかしいと表明しないと物事は始まらない。声に出して表明すれば初めて次の展開ができる。批判も賛意もありますがそうして初めて一歩が踏み出せる。出会う、話を聞いて、その歴史背景を明らかにして、そして自分の取るべき責任は何かということを知って、具体的に何かを変えていく。それが基幹運動の骨組みであると思います。

変えていくべきことは何か。体制への依存から自立し、私たち一人一人が親鸞聖人の教えをいただきながら、『私にとっての親鸞聖人の教え』に従い運動を進めていく。それが変えていかなければならないことであると思えます。」

【高岡教区教務所職員 岡西 好持】

これからの日程 (7 / 2 0 ~ 8 / 2 1)

7月		
20	会館永代経 寺青連研	
21	氷見組巡回	第2連区仏壮大会(東海)
23	中央教修了者のつどい	
24	仏婦連盟実践運動研修会 非戦・平和公開学習会 (映画上映会)	
25	水波組聞法のつどい 教区コーラス練習日 布教大会(井波別院) 長寿苑ビハーラ活動	
26	教学開発室 門徒総代会常任幹事会 (~ 2 7) 若神組巡回	
27	氷見東組巡回 さくら保育園夕涼み会 関野組夏期研修会(~ 2 8)	
28	氷見組巡回	仏青全国真宗青年のつどい(~ 2 9 ・香川)
30	教区役職者視察研修 (~ 3 1)	
8月	8月1日~5日各組寺院で 黎明・諸種講座	
1	雨晴苑ビハーラ活動	
5		
6	教区平和を願うつどい	
7	布教団実践運動研修会	
8	同朋推進者研修会	
11	常例法座	
14	教務所お盆休み (1 7 日まで)	
21	富山仏教学会例会	B 講員研修会 (~ 2 2 ・富山)

ラジオ放送~西本願寺の時間~

『みほとけとともに』

北日本放送(KNB)・73.8kHz.
毎週土曜日(本山制作)午前6:15~6:25
第2・4日曜日(富山・高岡制作)午前6:00~6:10

- 7/14(土): 筑波 敬道氏(山口県・教法寺)
「信仰は生活の力」
- 7/21(土): 筑波 敬道氏(山口県・教法寺)
「直ちに(帰り)来たれ」
- 7/22(日): 原 智精氏(富山教区・正興寺)
- 7/28(土): 藤本 文隆氏(奈良県・西教寺)
「郡 萌」
- 8/4(土): 藤本 文隆氏(奈良県・西教寺)
「親のはたらき」
- 8/11(土): 和氣 秀剛氏(奈良県・圓光寺)
「大切なよりどころ」
- 8/12(日): 平野 信教氏(高岡教区・順向寺)
- 8/18(土): 和氣 秀剛氏(奈良県・圓光寺)
「苦悩を引き受ける」
- 8/25(土): 苗村 隆之氏(京都府・正住寺)
「お立ち姿の阿弥陀様」

【西本願寺高岡会館8月の常例法座】

ご講師: 四 下 順 文 師
(富 山 教 区 ・ 妙 傳 寺)

ご講題: 『 未 定 』

午後1時20分ころからビデオ上映、2時から
お正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘い
あわせてお参りください。

お知らせ

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

一袋二枚入りで価格は次の通り

- ・特大箱(175袋) 7,000円
- ・大 箱 (45袋) 2,000円
- ・小 箱 (16袋) 900円

お申込み先は・・・〒933-0003 高岡市能町1298

耳浦 康真(本誓寺) Tel.&Fax.(0766)23-9822

